

特別講演

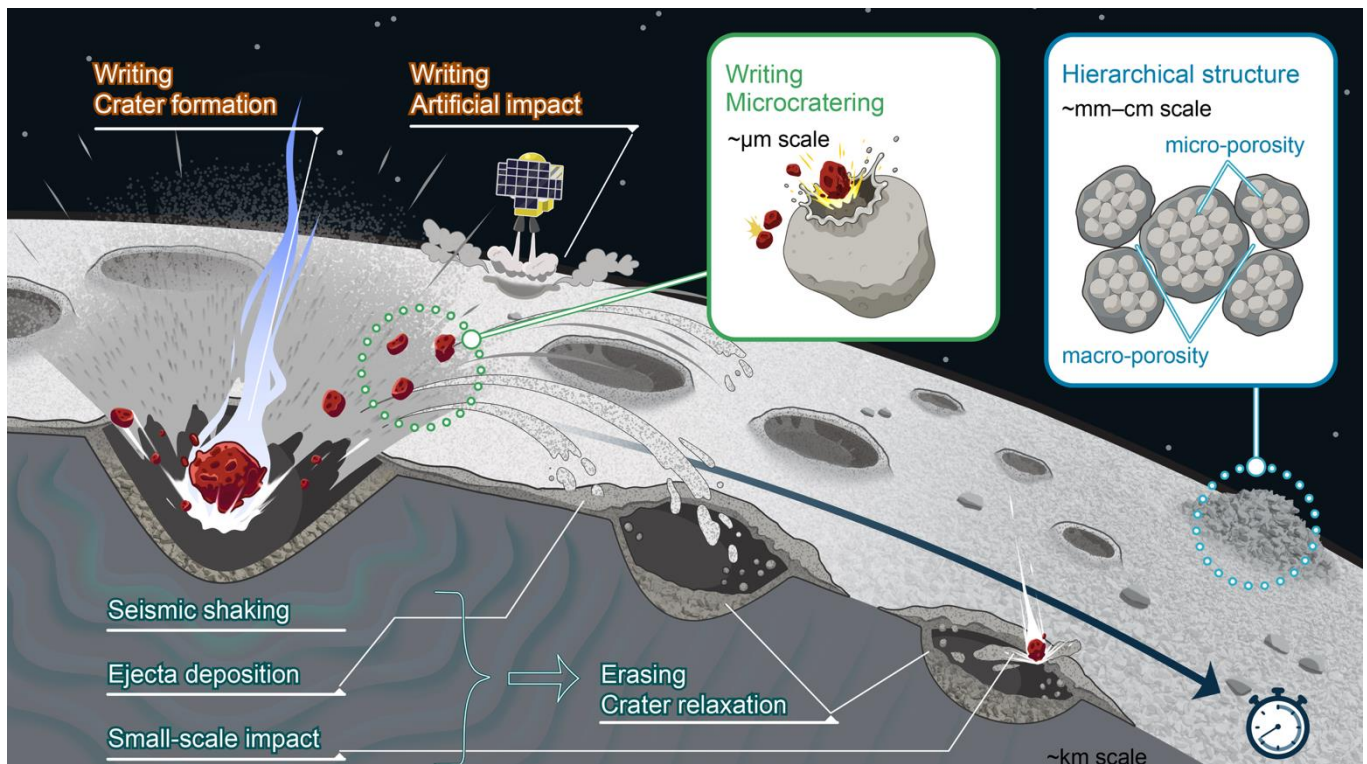
惑星粉体物理学

桂木洋光 教授

（大阪大学理学研究科）



固体惑星や小天体の表面は、基本的に砂礫（粉体）で覆われている。そこで起こる様々な現象をその表面地形から適切に解読するためには、粉体の物理挙動に関する深い理解が欠かせない。ただし、天体スケールの現象を室内実験で再現するには、さまざまな注意が必要となる。例えば、適切なスケーリングを考慮しなければならない。我々は、そのような点に注意を払いつつ、日常スケールの粉体現象と天体表面の現象を共通の物理で捉える取り組みを、実験に基づいて進めている。本講演では、衝突によるクレーター形成、振動によるその形状の緩和など、我々のいくつかの最近の研究について紹介する。粉体の基礎科学と惑星科学的応用の両面から、惑星表層が実は粉体物理の格好の実験場であることを示したい。



本支部例会での講演申込用URL（締め切りは10月17日（土）17:00）：
<https://kpsj.phys.kyushu-u.ac.jp/registration/>